

情勢報告

『みんなで‘土佐鷹’つくろうや！』ローラー大作戦



2月下旬に①土佐鷹栽培面積の拡大、②次年度の土佐鷹栽培者の支援方法、③販売も含めた土佐鷹推進体制などについて、作戦会議をJAと行なった。まず面積拡大のために、各地区ごとの担当営農指導員と普及指導員が、土佐鷹推進対象農家をリストアップし、3月上旬～中旬にかけて個別巡回にあたった。その結果、次年度は1列、1棟レベルの試作農家も含め、管内の土佐鷹栽培者が増加する見込み。今後も継続して、研究会とJA(営農、販売)、振興センターが一丸となり土佐鷹推進体制の具体的な内容を詰めていく予定である。

「品質が良い、量が欲しい」という市場の声、「良いものを一緒に作る仲間が欲しい」という土佐鷹生産者の声も大きくなり始めた。再来年度以降、土佐鷹が安芸管内の主力品種になるか、どうかは、次年度の活動にかかっている。

「明日へ男女(とも)に手をたずさえてのつどい」イン田野町
テーマ「我ら、土佐野菜応援団！」



マヨネーズ作成ワークショップ

女性サミットは女性リーダーが中心になり10回開催したので、振興センターは次のステップとして、青年農業士と企画から連携して男女に地域課題に取り組むことを支援した。実行委員会を重ね、野菜ソムリエを講師に田野町で、生産者や消費者等約80人が参加する「つどい」を開催できた。

内容は、安芸市ナス農家で野菜ソムリエ2人による講演およびワークショップ「かけがえのないパートナー：野菜～その魅力について～」及び、劇団女性リーダーのユニット「芸農人」による「ビバ！環境活動」買物袋の啓発、また、青年農業士が小学生を対象に環境保全型農業を推進した活動報告等盛りだくさんであった。

「雨ニモマケズ」東川支部ユズ新規就農者及び後継者勉強会



大苗移植した苗を見て
“大きいねー”

計画を立てるといつも雨ばかり。2月14日のこの日も前日からの雨が残し、午前と午後の予定を変更し、午前中に室内討議、午後から園地回り（剪定を中心に）を行った。勉強会では、剪定方法の基礎と農薬使用方法について、営農課とセンターで説明し、農家から質問を受ける方法で進行し、1つの説明に意見が3、4つと活発な意見交換となった。午後、雨も上がり、新規就農者の園3ヵ所で基本的な剪定方法と大苗移植+マルチの現地をみてたつぷりと勉強してもらった。大事な後継者を育てるための支部の取り組み、最後にみんなで盛り上げていこうと終わった。

さあ、18年の総決算！今年の経営はどうなった？



最後にきちんと自分の
経営を確認してね！

2月26日～3月2日、JA土佐あき安芸市青色申告会の3支部が、確定申告に向けて決算の仕上げを行った（計77名参加）。農業振興センターからは、出来上がった決算書を必ず前年度のものとじっくり見比べるよう指導を行った。「今年の売上は？」「そうか！今年はこの経費が掛かったんだ」と、皆大騒ぎ。今年のナス経営の傾向は、春先以降の単価高と、暖冬による重油量の減で、所得がアップする農家が多かった。

3月26～29日には今年度最後の講習として、「決算書から導く経営改善」と題した講習と、来年度、個別に経営分析・診断して欲しい人はいないか、希望を募ることにしている。

今後の果樹産地を考える（果樹産地構造改革計画協議会）



計画書に熱心に目を通す参加者

3月22日、JA土佐あき管内の農家・市町村・JA・農業共済組合・園芸連・農業振興センターが集まり、JA土佐あき果樹部の果樹産地構造改革計画協議会が発足した。

JA土佐あき果樹部は、ユズを除く果樹全般が対象であり、ポンカン・小夏などの柑橘類やイチジク・ビワ・ヤマモモなどの生産農家が部会員となっている。

会議の中では、まず、果樹産地構造改革計画書（案）が議論され、承認された。その後、ポンカンの加工についての取り組みの進捗状況が説明された。

これからは、この協議会が今後の産地の方向性を考えていく上での重要な会議となっていくように指導していく。